

【緒言】

近年、本邦では口腔乾燥症が社会的問題となっており、多くの研究が行われその診断方法、症状分類や対処方法が少しずつ明らかになってきた。口腔乾燥症の診断と評価には吐唾法などの安静時唾液量測定法、ガム法やパラフィン法などの刺激時唾液量測定法が使用されている。しかし、これらの方法を行うには被験者の協力が必要になる。障害児・者において、協力が必要な検査実施は困難な場合が多い。そのため、障害児・者における口腔乾燥の実態については明らかになっていない。

2005年からトンガ王国の障害児・者に対してヘルスプロモーションの考え方を軸にトンガ王国健康省と協力をして歯科医療ボランティアを実施している¹⁾。歯科医療受診の機会が少ないトンガ王国での障害児・者の歯科医療受診の機会は少ない。そこで、積極的な医療を受けられないトンガ王国障害児・者の口腔環境改善に唾液は重要な因子であり、口腔乾燥状態を把握する必要があると考えた。そこで、障害児・要介護者にける口腔乾燥症の診断評価ガイドラインに有効であるとされている唾液湿潤度検査紙を用い実際に本法が障害児・者に使用可能かを検討した。

【対象】

トンガ王国トンガタブ島の障害児・者の通園施設利用者34人とした。

年代と性別				主な障害（のべ数）	
年齢（歳）	男	女	計	障害名	人
8-10		1	1	精神遅滞	27
11-15	9	4	13	ダウン症候群	12
16-20	6	3	9	肢体不自由	8
21-25	1	1		視覚障害	3
26-30	2	2	6		
31-35	1		1		
36-40	1		1		
41-45	1		1		
不明		2	2		
計	21	13	34		

*本研究は日本大学松戸歯学部倫理委員会（EC10-014）および九州歯科大学倫理委員会（10-10）の承認のもと行なった。

【方 法】

脈およびSPO₂（動脈血酸素飽和度）の測定後，口腔内診査後，湿潤度検査紙を使用して舌表面の唾液測定を行なった。

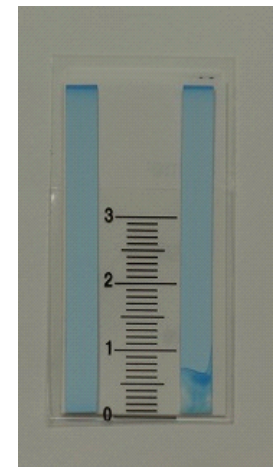
唾液湿潤度検査

使用器具

- 唾液湿潤度検査紙
（キソウエット，キソサイエンス社）
- メモリの印刷された保存記録用シート

測定時間

- 午前10時前後（10時30分の間食30分前）
- 朝食については不明
- 水分摂取は9時以降は摂取なし



測定方法

1. 座位が取れる場合は座位とした。座位が困難な場合は、日常生活で最も時間の長い姿勢とした。
2. 開口状態で、舌尖から10mmの舌背部の粘膜上に湿潤度検査紙を垂直に接触させ10秒間保持した。
3. 10秒後、取り出して検査紙の湿潤した部分の幅を目盛りの印刷されたカバーに挿入して測定した。



【結 果】

測定の実入れ状況

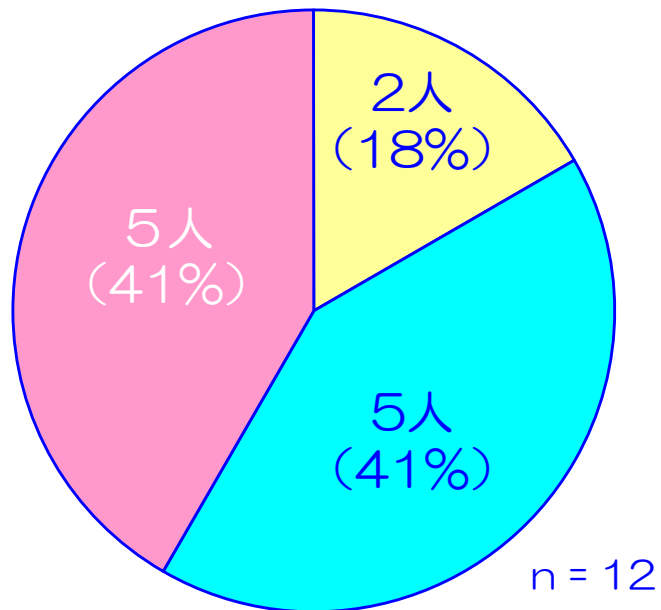
8歳以上の全検査実施対象者に実施できた。

測定結果

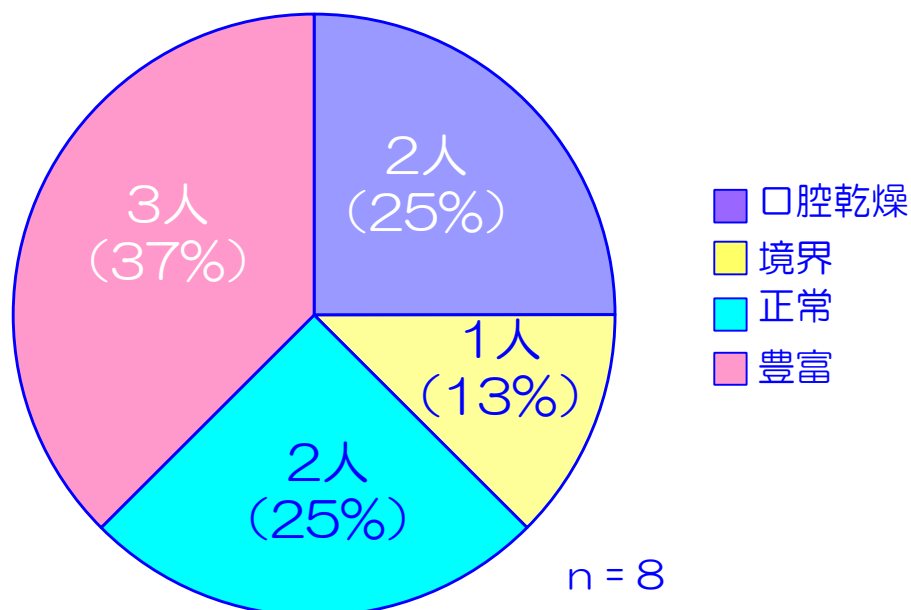
湿潤度検査結果	診断評価 ガイドライン ²⁾	人	%
1mm未満	軽度乾燥	2	6
2mm未満	境界	4	12
3~5mm未満	正常	13	37
5~7mm未満	豊富 嚥下機能の 確認が必要	6	18
7~9mm未満		3	9
9~10mm未満		3	9
11mm以上		3	9

障害別の唾液湿潤度結果

<ダウン症候群>



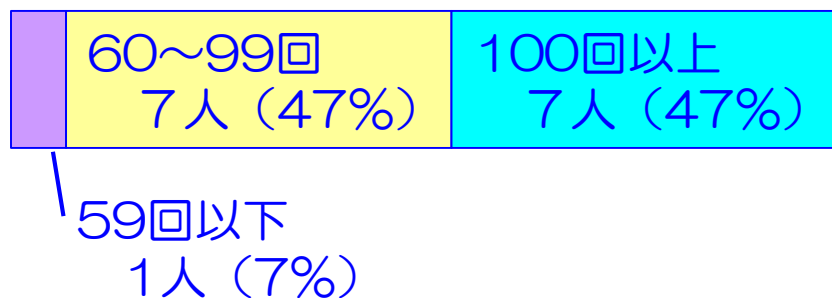
<肢体不自由>



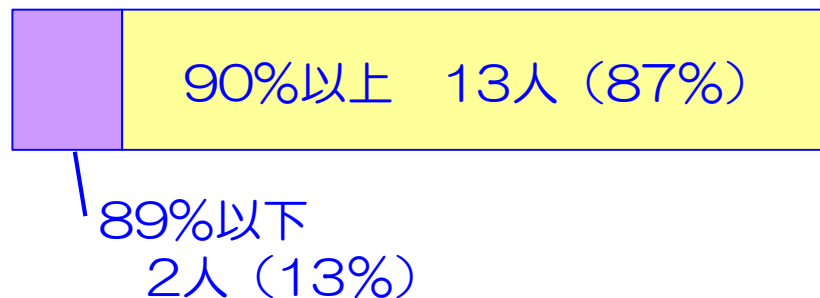
- 口腔乾燥
- 境界
- 正常
- 豊富

唾液湿潤度検査結果『豊富』者のバイタル結果

<脈数>



<SPO₂>



【考 察】

現在，本邦において口腔乾燥症の診断ガイドラインが検討されている．障害者・要介護者の口腔乾燥症ガイドライン²⁾では口腔乾燥症の診断に使用する検査方法を検討し，自覚症状，臨床診断基準，唾液湿潤度検査，ワッテ法が評価項目の条件に合うとしている．

協力を得にくい障害児・者を対象とする場合には上記にあげた検査方法を全て行うことは困難である．唾液湿潤度検査紙による検査方法は紙を舌に接触させるだけという侵襲のない容易な方法であり，材料を運ぶことにも負担がない．そこで今回，国際保健の現場に

本法を選択した。施設利用者へ検査前に施設職員に対して本検査を実施し，対象者に見せることで恐怖心なく簡単に受け入れてもらうことができた。また現地の歯科医療スタッフもその手技を簡単に習得した。

国際保健という言葉によるコミュニケーションが困難な状態に加え，長距離の移動にも負担なく対応でき，どんな対象者にも実施可能な本法は口腔乾燥状態のスクリーニング検査に有用な方法であると考えられた。今後は，さらにトンガ王国障害児・者に対する本検査を継続的追加し，服薬などの影響ない環境における口腔乾燥症の実態および口腔機能との関係追求に応用していきたい。

【結 論】

口腔乾燥度の把握を目的とした唾液湿潤度検査は、対象者や場所を選ばずに使用できる有効な検査法であった。

【参考文献】

- 1) 遠藤眞美, 竹内麗理, 他: トンガ王国での障害児・者施設歯科医療ボランティア活動ー2005年~2009年の5年間を振り返ってー, 日障誌, 597, 31, 2010. (抄)
- 2) 柿木保明, 眞木義信, 他: 障害者・要介護者における口腔乾燥症の診断評価ガイドライン, 日歯医学会誌, 30-34, 27, 2008.

なお、本研究は平成21・22年日本歯科医学会プロジェクト研究課題名『障害者および要介護者における口腔乾燥症の診断と治療に関する研究』（日本障害者歯科学会）として行った。